

イエスの神性

原田元道

イエスの主張

- ・ 間接的に「私は神だ」と主張している
 - 神の子：
 - 「すなわち、父が死者を復活させて命をお与えになるように、子も、与えたいと思う者に命を与える。また、父はだれをも裁かず、裁きは一切子に任せておられる。」(ヨハネ 5:21-22)
 - 神に等しい権威・権力をもっている
 - 人の子：
 - ◇ 罪を赦す権威をもっている(マルコ 2:10)
 - ◇ 天使たちを遣わすことができる(マタイ 13:41)
 - ◇ 多くの苦しみを受けて殺され、三日後によみがえる(マルコ 8:31)
 - ◇ 多くの人のための贖いの代価として自分の命を与える(マルコ 10:45)
 - ◇ 神の右に座して天の雲に乗って来る(マタイ 26:64；比較：ダニエル 7:13-14)
 - 神にしかできないことを成すことができる
 - 私はある：
 - 「はっきり言うておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある(egō eimi)』」(ヨハネ 8:58)
 - ←「わたしの証人はあなたたち／わたしが選んだわたしの僕だ、と主は言われる。あなたたちはわたしを知り、信じ／理解するであろう／わたしこそ主(egō eimi)、わたしの前に神は造られず／わたしの後にも存在しないことを。」(イザヤ 43:10)
 - ←「わたしはある(egō eimi)」は旧約聖書で「神」そのものを指すことがある
 - 「アブラハムが生まれる前から、神だ」と言っている
 - 聖霊を遣わす存在：
 - 「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。」(ヨハネ 15:26；比較：ヨハネ 14:16, 26)
 - 聖霊(神の霊)と等しい立場にある
 - 礼拝される存在：
 - 「舟の中にいた人たちは、『本当に、あなたは神の子です』と言ってイエスを拝んだ。」(マタイ 14:33；比較：ヨハネ 20:28)
 - 唯一まことの神を信じるユダヤ人たちの礼拝の対象だと認めている
- ・ 周囲はイエスの主張を正しく理解していた
 - 「ユダヤ人たちは答えた。『善い業のことで、石で打ち殺すのではない。神を冒瀆したからだ。あなたは、人間なのに、自分を神としているからだ。』」(ヨハネ 10:33；比較：ヨハネ 5:18; 8:59; マタイ 26:65)

⇒間接的ではあれ、周囲も分かるほど明確に「私は神(に等しい存在)だ」と主張している

イエスの神性の根拠

- ・ 神固有の性質をもつ
 - 全知性：
 - ◇ 人の心が分かる(マタイ 9:4; 12:25)
 - ◇ 遠く離れた人の様子が分かる(ヨハネ 1:48)
 - ◇ 初めて会った人の生活状態が分かる(ヨハネ 4:16-18)
 - ◇ 未来が分かる(マタイ 16:21; 26:23, 34)

- 永遠性：
 - ☆ アブラハムの誕生前から存在している(ヨハネ 8:58；比較：コロサイ 1:15)
 - 全能性：
 - ☆ 嵐を鎮める(マタイ 8:26-27)
 - ☆ パンと魚を増やす(マタイ 14:19-21)
 - ☆ 水をワインに変える(ヨハネ 2:1-11)
 - ☆ 死人を生き返らせる(マルコ 5:35-43；ルカ 7:12-15；ヨハネ 11:38-44)
 - 遍在性(復活後)：
 - ☆ いつも共にいる(マタイ 28:20；比較：マタイ 18:20)
 - ・ 神の業を行う
 - 天地万物を創造した(ヨハネ 1:3；コロサイ 1:15-16；ヘブライ 1:2)
 - 天地万物を支えている(コロサイ 1:17；ヘブライ 1:3)
 - 罪を赦す(マルコ 2:5-12；使徒 7:60; 13:38-39；コロサイ 3:13)
 - 人を裁く(ヨハネ 5:22；I コリント 4:4；II テサロニケ 1:8-9；II テモテ 4:8)
- ⇒神だけがもつ性質、力、権威、権力をもっている

イエスの神性の意義

- ・ 見えない神を見ることができる
 - 「イエスは言われた。『フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、「わたしたちに御父をお示してください」と言うのか。』」(ヨハネ 14:9)
 - イエスの生き様を通して、見えない神の性質(愛、聖さ、力など)が表される
 - ・ 救いが保証される
 - 一人の人間に人類の罪は背負えない
 - ←創造主だけが被造物の犯した過ちの責任を取れる
 - 「また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。キリストがわたしたちのために御自身を献げられたのは、わたしたちをあらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を御自分のものとして清めるためだったのです。」(テトス 2:13-14)
- ⇒イエスを通して神を知り、救い主を賛美・礼拝する

まとめ

- ・ イエスは間接的に「自分が神(に等しい存在)だ」と主張している
 - 神の子、人の子、私はある、聖霊を遣わす存在、礼拝の対象
- ・ イエスは神の性質、力、権威、権力をもっている
 - 全知、全能、永遠、遍在、創造、赦し、裁きなど
- ・ イエスに表される救い主なる神を賛美・礼拝する

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」(フィリピ 2:6-11)